

宇宙解釈の進化は許されない?——NHK への提言

Greatchain

2019/04/07

この「許されない」は 2008 年に出て大きな話題となった、ベン・スタインの映画『追放されて——インテリジェンスは許されない』Expelled: No Intelligence Allowed から取っている。「インテリジェンスを許さない」と言っているのは、この映画の取り上げるダーウィン進化論だけでなく、唯物論一般の偏狭な態度のことである。簡単に言えば、この宇宙で知性や創造力を持つ者は、地球上の（もっと高い知性をもっているとされる地球外人は除くとして）人間だけであって、宇宙そのものが知性や創造力など持たない、という前提のことである。これは 20 世紀の終わり近くまでは、主流であったと考えられるから、これにしがみついても無理はない。

しかし我々の時代は、そのような唯物論を脱出しようとしている。特に幼い子どもの見る TV 番組で、そのような前提に立つ考え方を、ことさら強調する必要はないではないか。ベン・スタインの映画でも、ダーウィンとは別の考え方があるのではないかと提案すること自体を「許さない」学界を、批判しているのである。君たちは間違っていると言っているのではない。そういうことを考えるなら、放送する人々は、次代を担う子供たちに対して、そのような配慮はすべきではないか。「それがそうはいかない悲しい事情があるのだ」と、トップからは言われるかもしれない。それなら、せめてそれがわかる暗号のようなものを工夫すべきであろう。ここは面従腹背が正しい。「ビッグブラザー」は斃れようとしている。かつての「ポリティカル・コレクトネス」は、だんだん死語になった。インターネットを見れば、誰も遠慮しなくなったことがわかるではないか。

ダーウィン進化論は「彼ら」の武器である。民衆を無力化し、扱いやすくする密かな武器である。彼ら自身はそんなものを信じてはいない。彼らは、神を殺そうとする宗教信者である。今、この理解なしに、何事も報道できないことを知るべきだ。唯物論の間違いは、物質から生命が発生したと考えることでもある。これを前提とした科学者がどれだけ失敗したかを見れば、我々は賢くなっていくべきである。宇宙は初めから、生命として、方向または目的をもった生命として、存在している。我々の一つ前の記事「神学や宗教の概念が全く変わってきた——D・ウィルコック講義」を読んでみればわかる。唯物論・無神論でなければ科学ではない、などという迷妄に縛られている者が、放送のような、教育に大きくかかわ

る仕事に従事すべきではない。科学と宗教が対立しているのではない。無神論科学と有神論科学が対立しているのだ。そして後者が、仮説として遥かにより有効である。なぜなら前者は後者を排除（迫害、追放、喧嘩）しなければ成り立たないが、後者は前者を包摂するからである。

その喧嘩腰のわかる一つの文章を引いてみよう。レナード・サスキンドという学者はこう言っている：——

インテリジェント・デザインの唱道者たちは、一般に、人間の視覚システムのような複雑なものが、純粋にランダムなプロセスによって進化できたなんて、信じられないと言う。たしかに信じられない！ しかし生物学者は、非常に強力な武器である「自然選択の原理」をもっている。この原理の説明力はきわめて大きく、ほとんどすべての生物学者は、証拠の重みは強力にダーウィンに有利だと考えている。眼の奇跡は奇跡に見えるだけである。

「自然選択の原理」が、自然界を征服する強力な武器だと言っている。そもそもこの荒っぽさ・猛々しさが、この人物から学者としての資格を奪う。説明はいらないだろう。「ほとんどすべての生物学者が…」というところも、私が長い間 ID に関わった限り、事実と反する。ただ、彼らはいわば党派を結成している。ある生物学者は、「ダーウィン？ それは党の路線 party line だよ」と言ったという。メディアも当然のように、党派を自任しているのか？ それならあなた方は犯罪者だ。なぜならこれは、右翼か左翼かの問題ではない。道徳すなわち善悪が、人間の作り物か、神から与えられたものかの問題だからである。これは今のアメリカの民主党を見ればよい。トランプが、子供売買する者たちを始末すると宣言したとき、万雷の拍手が起こったが、ある者たちは拍手しなかった。

30 年以上も前、私がまだ大学で教えていたとき、共著で大学から出版すべき論文を書き、その中で、ダーウィン進化論のことを「浅はかな説」と書いた。これを読んだ審査員の一人が、こういう非科学的なことを書く論文は排除せよ、国費を使って出すことはできない、と言った（もちろん伝言）。この「浅はか」は実は私の言葉でなく、詩人の T・S・エリオットの、現代を墮落させたものの筆頭としての「進化の浅はかな考え」superficial notions of evolution という言葉から借りたものだった。この「浅はか」は「間違い」より適切である。なぜなら表面から見れば、例えば、サルも人間のほとんど変わらない。しかし人間は、サルの持たない言葉すなわち抽象能力をもっている。この目に見えない能力によって、世界は一変したのである。精神的（霊的）な側面を見ず、うわべだけで「進化」を論ずることはできない。

私は昨日 (4/6) NHK の「チコちゃん」の番組を見て、気分が悪くなった。これは 2 重にお

かしい。人間が愛想笑いをするのは、他者との間の関係を和らげるためである。その起源が、人間の「祖先であるサル」の笑いにあるというのは馬鹿げている。これはサルと人間との親子関係をもっと強調せよ、という要請が先にある、その工夫として尾ひれをつけたものであろう。では、私からクイズを出そう。幼稚園から公園、小学校に至るまで、必ず鉄棒や雲梯が具えてあるのはなぜか？ 何？子供が遊ぶため？ プー違います。あれはね、自分はサルの子孫だと、子供にちゃんと認識させ、そのすきに、道徳なんてものは存在しないのだと、教え込むためのものです。